

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って190単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（薬学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような人材養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>薬剤師として高度な専門知識と臨床能力を身につけ、医療をはじめとする多様な分野で社会貢献できる有為な人材を養成するために、教養科目・語学教育科目・基礎科学科目に続いて、薬剤師教育カリキュラムのガイドラインである改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」（平成25年12月、文部科学省 薬学系人材養成委員会）に準拠した科目と本学独自の科目を適切に配置したカリキュラムに則り、薬剤師として必要な問題解決能力および実践的能力を修得することを目標に、次のように実施します。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	医療人としての使命感と倫理観を備えている。	<p>1) 1～2年次は、初年次教育を重視し、教養および基礎教育科目により基礎的科学力を養い、薬剤師への志向と学修意欲の向上を図ります。</p> <p>2) 2～3年次は、薬学を理解し、薬剤師に必要な基本的な科学知識・技能を養います。</p> <p>3) 3～5年次は、医療の高度化に対応するために、薬剤師に必要な医薬品の有効性・安全性、病態・治療、健康・環境について学びます。</p> <p>4) 4～6年次は、4年次の実務実習事前学習、5年次の病院実習、薬局実習をふくめ臨床科目を学び、薬剤師として医療に貢献できる知識・技能・態度を学びます。</p> <p>5) 4～6年次は、卒業研究により、倫理性、問題発見・解決能力、論理的な思考力を養います。</p> <p>6) 全学年を通して、語学力および薬剤師に必要なコミュニケーション力を養うとともに倫理を学び、薬剤師に関わる社会の仕組みや法規制を学び、地域における保健・医療・福祉での、個人情報取扱い、地域連携などを学びます。</p> <p>教育課程全般を通じて、通常の講義だけでなく、実習、双方向型授業、問題解決型演習といった教育手法を活用し、学生の理解を高めます。</p> <p>また、教育課程の評価については、卒業研究発表・論文作成および総合演習Ⅱ試験をもって、教育課程を通じた学習成果の総括的評価を行います。</p>	<p>1) 幅広い教養と医薬品や病態・薬物治療の基本となる基礎学力（化学・生物・数学・英語・国語）を有し、将来薬の専門家として、医療の発展に貢献したいという強い意欲がある。</p> <p>2) 患者・生活者心理の理解の基本となる基礎学力と、医療や健康・福祉などに携わる者としての使命感と倫理観を有している。</p> <p>3) 科学的な思考力と問題提起・解決能力を身につけることの重要性を理解できる。</p> <p>4) 医療人としての思いやりと協調性、コミュニケーション能力を育て、薬剤師有資格者として健康・福祉その他の分野で社会貢献したいという強い意欲がある。</p> <p>5) 自ら学ぼうとする強い意欲、地道に努力する勤勉さがある。</p>
	1-2	豊かな教養と医薬品および臨床に関する専門的知識を習得している。		
	1-3	コンプライアンス（法令遵守）の必要性を理解している。		
2. 技能・表現	2-1	薬剤師として、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計、安全性・有効性、リスク管理およびチーム医療への参画に必要な薬学的能力を備えている。		
	2-2	薬剤師業務および関連業務に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を備えている。		
	2-3	薬物療法および地域の医療・健康・予防・福祉介護等の実践などに必要な基礎的な科学技術を習得している。		
3. 思考・判断／ 態度・志向性	3-1	進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を備えている。		
	3-2	薬剤師として、医療と医薬品を巡る社会的動向と患者・生活者心理を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を備えている。		
	3-3	次世代を担う薬剤師としての自覚を備え、後進を育成する意欲と態度を備えている。		